

2017年3月期 決算説明会

2017年5月29日



目次

1. 2017年3月期 決算概要	P. 2
2. 2018年3月期 業績予想	P. 12
3. 中期経営計画2016の進捗	P. 16
Appendix 会社概要	P. 25

1. 2017年3月期 決算概要

2

2017年3月期 トピックス

追い風の続く建設業界であり、建設投資額が3年振りに増加

- 2016年度建設投資額が前年度比2.4%増の見通しとなり、3年振りに増加
 - 国土強靱化政策に沿った防災・減災対策、インフラ老朽化対策などの公共投資継続
 - NEXCO西日本九州支社より熊本地震後の早期復旧に尽力したことで感謝状受領
- 労務費・資材費の上昇ペース鈍化
 - 労務費は引き続き上昇するも、資材費については鋼材を除き横ばい傾向
平成28年3月からの適用公共工事設計労務単価(平成27年2月比): 全国+4.9%、被災三県+7.8%



売上高は期初計画比で減少するも、各利益項目で期初計画比で大きく改善し、3期連続で最高益更新

- 売上高は、案件期ずれにより期初計画よりも減少したが、前年度からは増加
- 各事業とも、期初計画に対し利益率改善し、全体で1.9%の改善となる
 - 期初計画: 9.9%→実績: 11.8%
- 各利益項目が期初計画比で大きく改善し、3期連続で最高益更新
 - 期初計画比増加率—売上総利益: +17.4%、営業利益: +66.1%、経常利益: +62.2%、当期純利益: +76.9%

ガバナンスの向上

- 役員報酬制度見直しの一環として役員報酬BIP(Board Incentive Plan)信託を採用
 - 取締役および執行役員(社外取締役を除く)に対し、業績との連動性が高く、透明性・客観性の高い役員報酬制度として採用
- 期初計画より4円増配し、年間配当金を12円とする配当予想の修正を実施

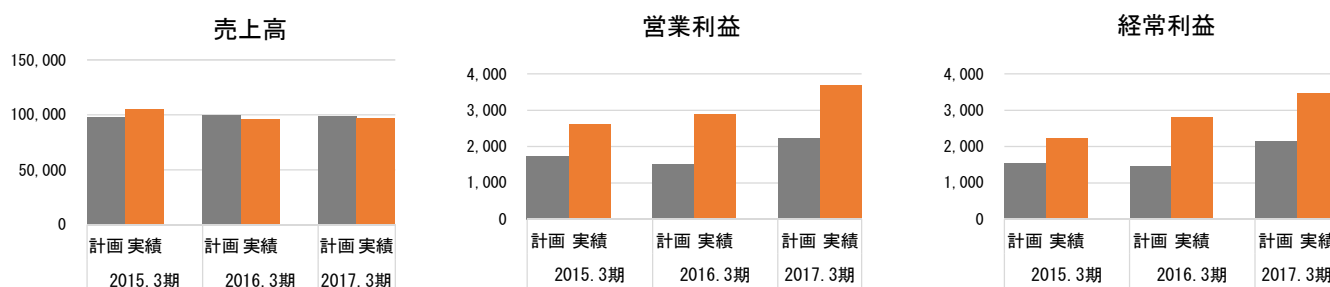
3

業績サマリー

連結業績サマリー

(単位: 百万円、%)

	2015.3期		2016.3期		2017.3期		期初計画比	コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比		
売上高	104,906	0.6	96,066	△8.4	96,715	0.7	△2.3	全体で前年比0.7%の増加
売上総利益	9,082	13.1	10,020	10.3	11,460	14.4	17.4	各事業で採算性が向上
営業利益	2,607	53.0	2,891	10.9	3,687	27.5	66.1	販管費増加があったものの売上利益の増加により4期連続増益
経常利益	2,222	40.7	2,799	26.0	3,454	23.4	62.2	支払手数料の支出増があったものの売上総利益の改善で増加
親会社株主に帰属する当期純利益	1,677	29.4	1,817	8.3	2,653	46.0	76.9	3期連続で最高益更新
1株当たり年間配当金(円)	6.0		8.0		12.0			

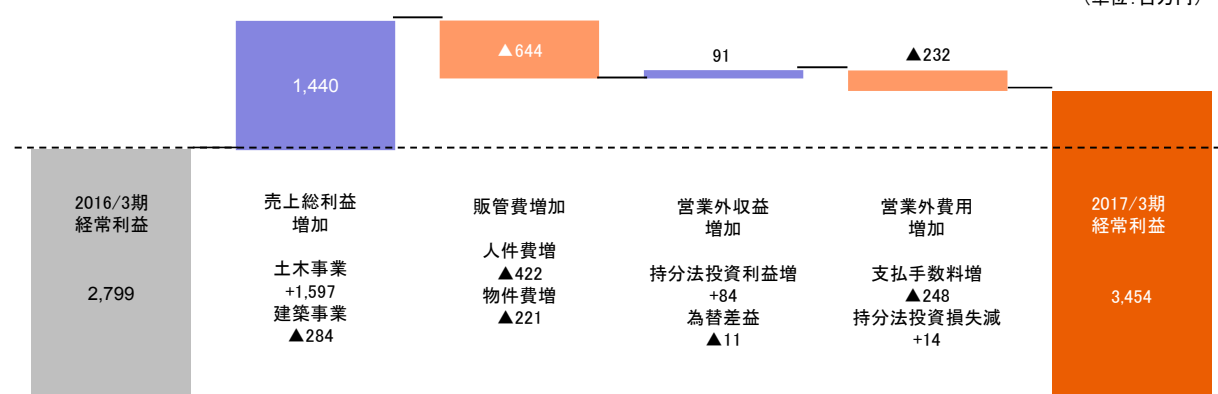


4

利益増減分析(前年同期比)

経常利益増減分析

(単位: 百万円)



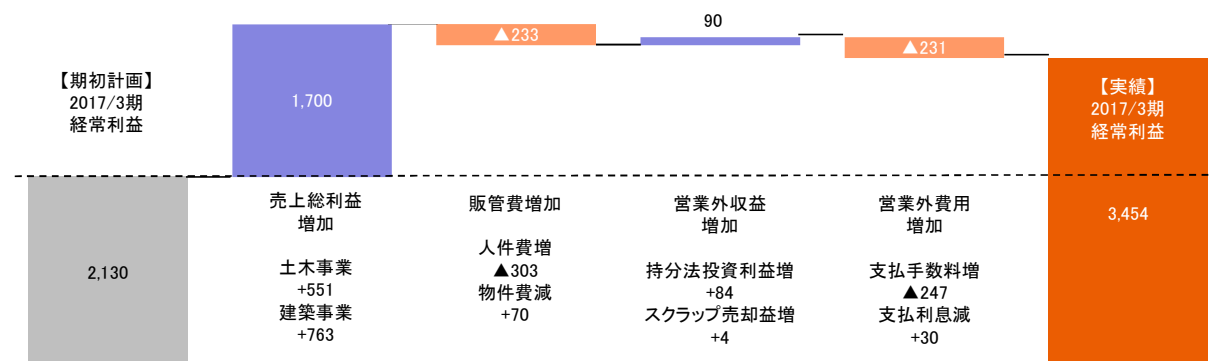
- 売上高が微増となったものの売上総利益が前期比14億4千万円と大幅増加し、利益率は10.4%から11.8%に改善
 - 土木事業は前期繰越工事の消化が進み売上高が増加、売上総利益は工事竣工に伴う設計変更の獲得、原価改善等により、工事採算が改善
 - 建築事業は工事進捗の期ずれ等により売上高が減少し、利益率も微減となり売上総利益が減少
- 販管費が前期比6億4千万円増加
 - 人財確保の観点から従業員の処遇改善、人員配置の最適化等の施策により人件費が増加
- 営業外収益が前期比91百万円増加
 - 主に海外の持分法適用関連会社からの投資利益により増加
- 営業外費用が前期比2億3千2百万円増加
 - 主にコミットメントラインの契約変更に係る支払手数料により増加

5

利益増減分析(期初計画比)

経常利益増減分析

(単位:百万円)



- 売上総利益が期初計画比17億円増加し、利益率が9.9%から11.8%に上昇
 - 土木事業は工事進捗が計画より未達となったものの設計変更獲得、原価改善等により増加、建築事業は工事進捗が計画を上回ったこと、原価改善による利益率の向上により、売上総利益が増加
- 販管費が期初計画比2億3千3百万円増加
 - 外注設計料等の支出抑制により物件費は削減したものの、人材確保の観点から従業員の処遇改善、人員配置の最適化等の施策実施により人件費の支出が前期より増加し、期初計画比では全体で2億3千3百万円の増加
- 営業外収益が期初計画比9千万円増加
 - 主に海外の持分法適用関連会社からの投資利益により増加
- 営業外費用が期初計画比2億3千1百万円増加
 - 主にコミットメントライン変更に係る支払手数料により増加

6

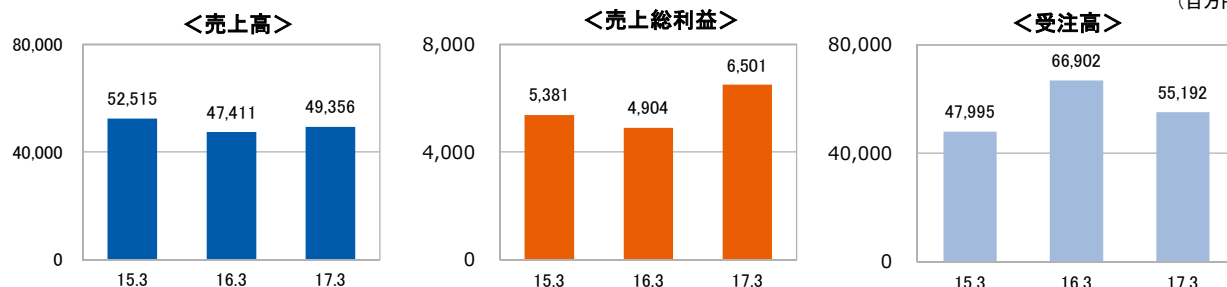
土木事業

業界環境

- 高速道路の維持補修、東京オリンピック開催や観光先進国実現に向けた交通インフラ・港湾整備の発注増加
 - 高速道路の維持補修・老朽化対策については今後数年間に亘る計画が発表され、業界各社の受注獲得競争激化
- 国土強靱化政策に沿った防災・減災対策推進、インフラ老朽化対策などの公共投資継続
 - 復興需要、防災・減災対策、人手不足対策等によりPCに対する需要が高まる

業績推移

(百万円)



- 売上高が増加し、売上総利益は工事竣工に伴う設計変更獲得、原価改善等により大幅増加
 - 前期繰越工事の消化により売上高が増加、工事竣工に伴う設計変更獲得や原価改善により売上総利益は大幅増加
- 2016.3月期はNEXCO発注の大型案件を複数受注したことで大幅増加となったが、当期は地方自治体の受注が増加
 - 技術提案力と積算精度の向上により大型案件を複数受注

大型受注案件(受注金額上位3件)

工事名	工事概要
新東名杉名沢第二高架橋	静岡県御殿場市杉名沢～神場の新東名杉名沢第二高架橋のPC・鋼上部工及び西川橋の上部工を新設
新東名高速道路 高松トンネル工事	秦野IC(仮称)～御殿場IC(仮称)間の高松トンネルから延長した尺里川橋の上部工を施工
(仮称)柵の瀬橋上部工工事	主要地方道一関北上線の北上川を渡河する柵の瀬橋の上部工架替工事

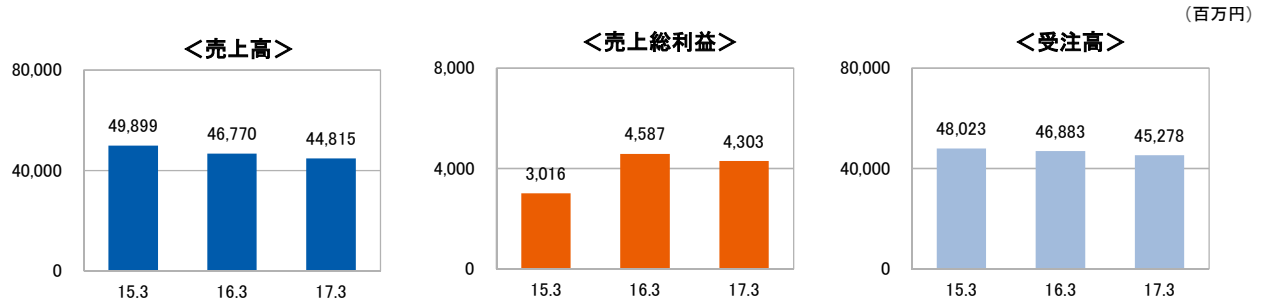
7

建築事業

業界環境

- 堅調な業績に支えられた民間建設投資の発注増
 - 企業収益の改善等を背景に、民間建設投資は底堅く推移し市場環境は好転
 - 海外経済の不確実性の高まりからの金融資本市場への影響については懸念材料あり
- 労務費や原材料費の高騰が沈静化し、過度な受注競争は減少
 - 想定よりも労務需要は安定し、各社にて収益力の改善が顕在化

業績推移



- 採算最重視の受注戦略を継続するも、売上高の期ずれ等による減少により売上総利益も減少
 - 労務費や原材料費の動向の沈静化等による市場環境改善があったものの利益率が微減(9.8%→9.6%)
- PC建築では、豊富な施工実績を基にPC建築への理解度向上や他社との差別化を図った営業戦略を展開
 - PC建築の技術的優位性をアピールするPR資料の全面改定や施工物件の現場見学会を実施

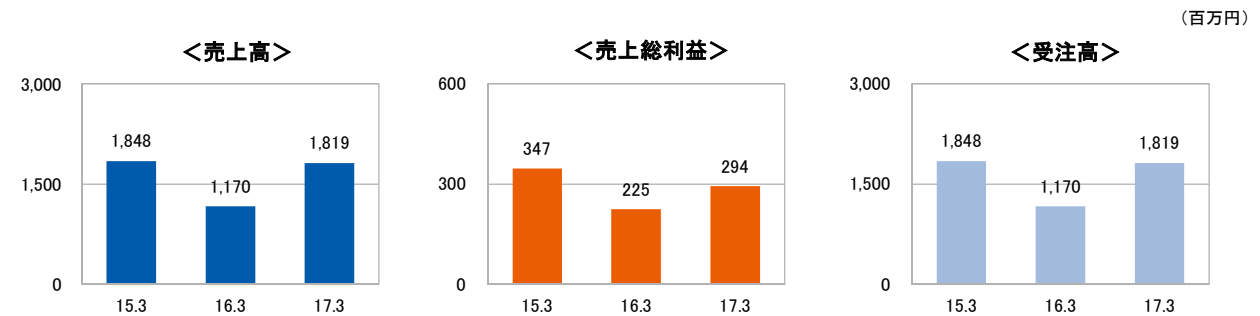
大型受注案件(受注金額上位3件)

工事名	工事概要
(仮称)渋谷区大山町計画	RC造、一部S造、工事延床面積約9千㎡、地上5階建、東京都渋谷区に新設する共同住宅2棟、老人ホーム1棟
塗料・自動車用防音材メーカー工場棟2期工事	S造 工事延床面積約9千5百㎡、地上5階建、愛知県に新設する車輛用断熱材工場
精密機械部品メーカー工場増築工事	S造、工事延床面積約1万㎡、地下1～2階、群馬県の部品製造工場の増築

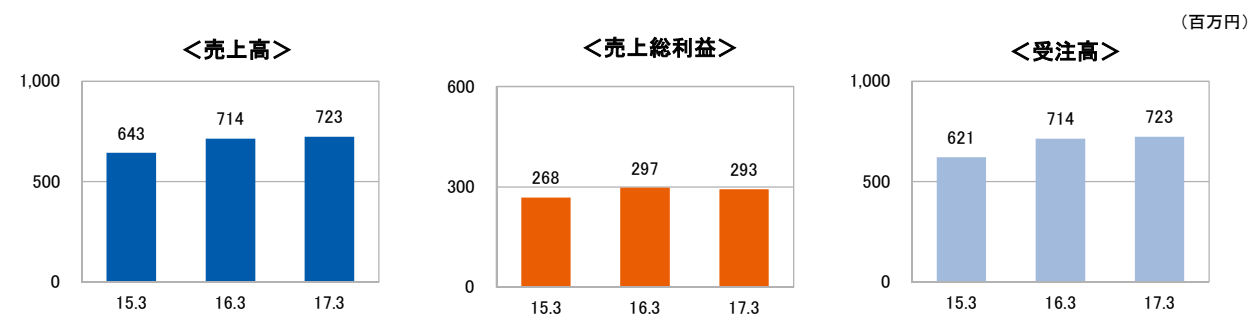
8

製造事業及び兼業事業

製造事業 - 業績推移



兼業事業 - 業績推移



9

貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

(単位: 百万円)

	2015.3期 実績	2016.3期 実績	2017.3期 実績	コメント
資産合計	73,946	69,000	77,306	
流動資産	57,001	52,644	60,263	
現金預金	10,025	11,599	15,049	・営業収入の前倒し入金等により、現金預金が3,450百万円増加
受取手形・完成工事未収金等	40,654	34,865	38,161	・工事竣工により、受取手形・完成工事未収金等が3,295百万円増加
固定資産	16,945	16,356	17,043	
有形固定資産	12,277	12,036	12,232	・工事用機械の新規購入等により、有形固定資産が196百万円増加
無形固定資産	36	33	217	・株式会社亀田組への出資により、のれん代183百万円を無形固定資産に計上
投資その他の資産	4,631	4,287	4,593	
負債合計	52,495	46,455	52,583	
流動負債	46,350	36,806	42,254	・工事進捗による支払債務の計上により、支払手形・工事未払金等が1,434百万円、電子記録債務が1,195百万円それぞれ増加
固定負債	6,144	9,649	10,328	
純資産合計	21,450	22,544	24,722	・当期純利益2,653百万円を計上、配当金379百万円を支出
株主資本	19,627	21,244	23,306	・役員報酬BIP信託を導入し当社株式を市場から取得したことにより、自己株式が213百万円増加
その他包括利益累計額	1,822	1,299	1,416	
負債純資産合計	73,946	69,000	77,306	

10

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位: 百万円)

	2015.3期 実績	2016.3期 実績	2017.3期 実績	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,181	5,604	4,248	
税金等調整前当期純利益	2,220	2,363	3,473	
減価償却費	586	610	711	
減損損失	9	436	1	
退職給付に係る資産の増減	△315	△80	6	・営業収益の積上げ
退職給付に係る負債の増減	△22	123	250	・工事竣工による売上債権増加、未成工事受入金の増加
貸倒引当金増減	△318	72	11	
工事損失引当金増減	△52	△135	31	・工事進捗によるたな卸資産の増加、その計上に伴う仕入債務の増加
売上債権の増減	△3,303	5,752	△2,860	
たな卸資産の増減	870	22	△1,289	
仕入債務の増減	△2,870	△2,850	2,419	
未成工事受入金の増減	1,948	△1,861	1,602	
その他営業活動フロー	△369	1,754	677	
法人税等支払額	△564	△604	△787	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△569	△666	△811	
有形固定資産取得	△611	△675	△801	・工事用機械設備更新等による有形固定資産の取得
その他投資活動フロー	41	9	△9	
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,131	△3,354	13	
短期借入金純増減	2,618	△6,473	990	・短期借入金の増加
長期借入金純増減	—	3,500	—	
リース債務返済による支出	△72	△74	△92	・役員報酬BIP信託を導入したことによる自己株式の取得
自己株式の取得による支出	△0	△0	△208	
配当金支払額	△189	△284	△379	・配当金の支払
その他財務活動フロー	△225	△21	△296	
現金及び現金同等物期末残高	10,025	11,599	15,049	

11



2. 2018年3月期 業績予想



12



2018年3月期の取組み

高速道路会社の大規模更新・修繕事業への対応

- NEXCO各社、首都高速道路、阪神高速道路等の大規模更新・修繕工事の受注・施工の拡大
 - － 大規模更新・修繕工事を施工した支店の技術的ノウハウを他支店に展開し、今後受注工事の収益率を高める
 - － 床版取替半断面施工によるパイロット工事が竣工、この施工実績を基に次の工事受注を目指す
 - － 床版製作設備増強、機械化施工に向けた設備投資を実施するとともに、協力業者への教育・指導等、施工体制の充実を図る

PC建築部門の強化・拡大

- PCゼネコンとしてPC建築部門の組織強化、受注・売上の拡大
 - － 営業及び技術要員の増員を行い、顧客情報の共有化による積極的な営業を行い受注を強化する
 - － 発注者、設計者に対して、プレキャストPC設計施工実績を基にPC建築への理解を深めるソリューション営業を行う
 - － ピー・エス・コンクリート社との連携による高品質生産体制の構築や生産性向上を図る

成長分野の技術開発、技術提案力の向上

- 新設橋梁及び大規模更新・修繕工事の受注確度を高めるべく、技術提案力・積算精度を向上させる
 - － 床版継手工法の必要な実験はほぼ終了し、今年度は耐久性の確認を行うとともに実用化し、採用に向けた提案を行う
 - － 床版取替半断面施工のパイロット工事の竣工により技術的ノウハウを蓄積、今後は受注に向けた展開を図る
 - － 地域毎に要求事項、含まれる工種が多様なため、技術提案の参加経験を積んで対応力を高める

グループ全体の人財確保・育成・活用の推進

- ピーエス三菱グループのパフォーマンスを更に発揮するための人財活用
 - － グループ合同会社説明会の実施を検討し子会社各社の人財確保を図りつつ、当社グループ全体の人財のレベルアップ、横断的な人財交流を実施する
 - － 採用は新卒採用を中心に、中途採用、定年再雇用を行い、年齢構成の歪み是正、女性活躍、高齢者雇用を引き続き推進する
 - － 魅力ある会社に進捗しているかをモニタリングするため、従業員満足度調査を実施し、職場環境の改善、離職者防止等に繋げる
 - － 従業員面接制度を更に充実させ、長時間労働の抑制、仕事の棚卸し等を推進する

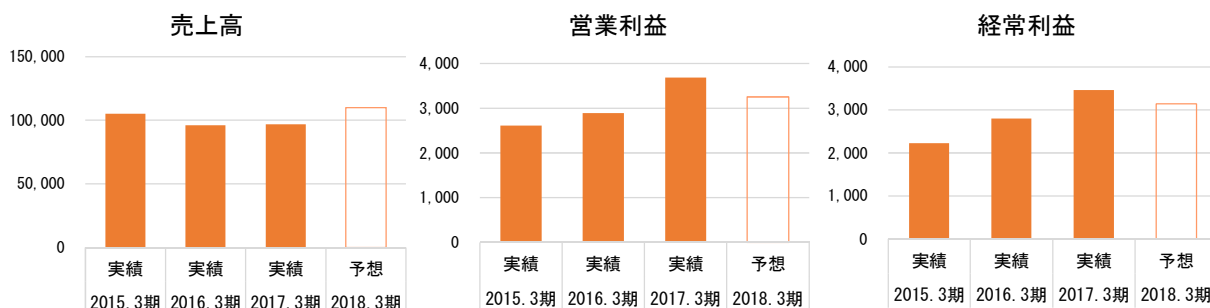
13

業績予想

連結業績予想

(単位:百万円、%)

	2016.3期		2017.3期		2018.3期予想		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	96,066	△8.4	96,715	0.7	110,000	13.7	土木事業の大幅増収
売上総利益	10,020	10.3	11,460	14.4	11,520	0.5	労務費・資材費上昇懸念 建築事業の競争激化
営業利益	2,891	10.9	3,687	27.5	3,250	△11.9	販管費の増加
経常利益	2,799	26.0	3,454	23.4	3,140	△9.1	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,817	8.3	2,653	46.0	2,220	△16.3	
1株当たり年間配当金(円)	8.0		12.0		12.0		



14

セグメント別業績予想

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位:百万円、%)

		2016.3期	2017.3期	2018.3期予想		コメント
		実績	実績	予想	前年比	
売上高	土木事業	47,411	49,356	59,450	20.4	・土木事業で、前期からの繰越工事大幅増加による増収 ・建築事業で、前期からの期ずれ案件の増加により増収
	建築事業	46,770	44,815	47,400	5.8	
	製造事業	1,170	1,819	2,500	37.4	
	兼業事業	714	723	650	△10.2	
	合計	96,066	96,715	110,000	13.7	
売上総利益	土木事業	4,904	6,501	6,890	6.0	・土木事業の売上高増加による増益 ・建築事業の競争激化による利益率の低下を見込む
	建築事業	4,587	4,303	4,120	△4.3	
	製造事業	225	294	250	△15.1	
	兼業事業	297	293	260	△11.4	
	調整額	5	67	—	—	
	合計	10,020	11,460	11,520	0.5	
受注高	土木事業	66,902	55,192	59,350	7.5	・土木事業は、大型プロジェクトの減少があるものの、引き続き公共事業関係費は横ばいで推移することから増加予想 ・建築事業は、好調な民間設備投資を受け増加予想
	建築事業	46,883	45,278	48,000	6.0	
	製造事業	1,170	1,819	2,000	9.9	
	兼業事業	714	723	650	△10.2	
	合計	115,670	103,013	110,000	6.8	

15

3. 中期経営計画2016の進捗

16

中期経営計画2016の進捗

数値目標と進捗

2017.3期 振り返り

- ・売上高が期ズレ影響により計画より微減となるものの、大幅な工事採算改善により経常利益は計画値対比62%アップ
- ・利益改善により営業利益率1.6%アップにより、ROE11.2%、ROA4.7%と計画値を大きく上回る
- ・配当については、当初8円から12円へ4円増配、配当性向は次年度以降の安定配当も鑑み、初年度21.3%とした。

2018.3期 業績予想

- ・受注高は、当初計画とおり、売上高については、土木事業の繰越高増加により、計画値より30億円増加
- ・売上利益は、手持工事の利益率見直しにより、土木11.6%(当初計画比+0.7%)建築8.7%(+0.4%)、全体で10.5%(+0.6%)と引き上げ
- ・工事採算の見直しにより、営業利益率3.0%、ROE8.9%、ROA4.0%と当初計画値より引き上げ
- ・販管費については、人財確保の観点から人件費アップを織込む
- ・配当は、12円へ配当とし、配当性向25%を見込む

(単位:百万円)

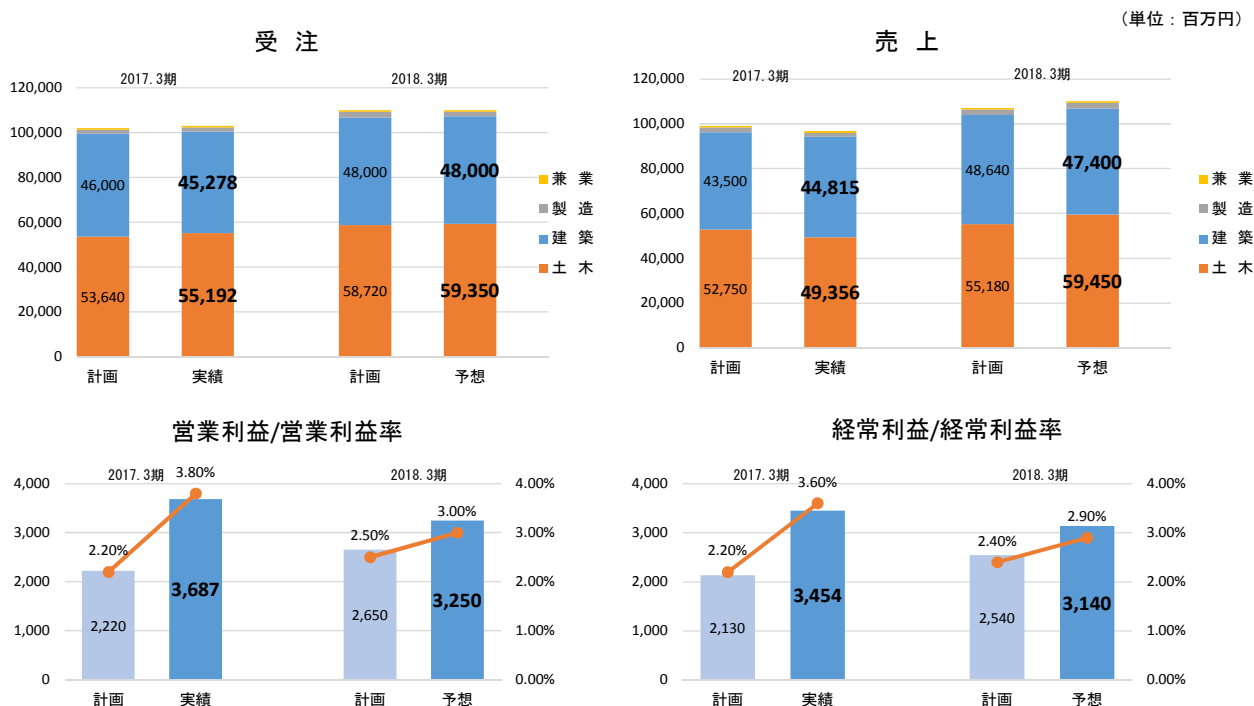
		2017.3期 計画		2017.3期 実績		2018.3期 当初計画		2018.3期 予想	
受 注	土 木		53,640		55,192		58,720		59,350
	建 築		46,000		45,278		48,000		48,000
	製 造		1,720		1,819		2,640		2,000
	兼 業		640		723		640		650
	合 計		102,000		103,013		110,000		110,000
売上高	土 木		52,750		49,356		55,180		59,450
	建 築		43,500		44,815		48,640		47,400
	製 造		2,110		1,819		2,540		2,500
	兼 業		640		723		640		650
	合 計		99,000		96,715		107,000		110,000
売上利益	土 木	10.0%	5,820	13.8%	6,823	10.9%	6,040	11.6%	6,890
	建 築	8.1%	3,540	9.7%	4,329	8.3%	4,040	8.7%	4,120
	製 造	9.5%	200	2.6%	46	10.6%	270	10.0%	250
	兼 業	31.3%	200	36.0%	260	31.3%	200	40.0%	260
	合 計	9.9%	9,760	11.8%	11,460	9.9%	10,550	10.5%	11,520
販売費及び一般管理費		7.6%	7,540	8.0%	7,773	7.4%	7,900	7.5%	8,270
営業利益		2.2%	2,220	3.8%	3,687	2.5%	2,650	3.0%	3,250
営業外収益			120		209		220		140
営業外費用			210		441		330		250
経常利益		2.2%	2,130	3.6%	3,454	2.4%	2,540	2.9%	3,140

		2017.3期 計画	2017.3期 実績	2018.3期 当初計画	2018.3期 予想
1株当たり利益 (円)		31.59	56.41	37.91	47.20
ROE		6.5%	11.2%	7.4%	8.9%
ROA		3.0%	4.7%	3.5%	4.0%
自己資本比率		33.4%	32.0%	34.4%	34.4%
連結 配当性向		23%	21.3%	平均 23%以上	
DELレシオ		0.52	0.49	0.51	0.51

17

中期経営計画2016の進捗

数値目標と進捗



18

部門方針・戦略の進捗状況

土木部門

部門方針

高速道路の大規模更新需要等、主力分野の変動に対応出来る事業体制を整える

進捗状況 今後の取組み

- 新設橋梁については、中日本高速道路社発注「新東名杉名沢第二高架橋」の受注など、引き続きPC建協でのトップランナーを堅持
- PC非橋梁・一般土木については、特に港湾関係の受注が増加、今後は当社特化技術の営業を強化していく
- 大規模更新事業では、西日本高速道路社発注「中国自動車道 吹矢谷橋他1橋床版補修工事」、「道谷第二橋床版取替工事」を施工、新規受注で東日本高速道路社発注「岩堰橋・黒沢川橋床版取替工事」、「八戸自動車道檜山橋床版補強工事」を受注
- 「道谷第二橋床版取替工事」では、交通規制を軽減することを目的として、床版を半断面単位で取り替える半断面床版取替工法による施工を行い、技術的なノウハウを蓄積
- グループ会社及び協力会社との連携を強化し、高品質な施工体制の充実、収益力アップに向けて体制を強化していく



床版取替状況(道谷第二橋)



竣工(道谷第二橋)

19

部門方針・戦略の進捗状況

建築部門	
部門方針	勝ち残りのための競争力を強化する
進捗状況 今後の取組み	➤ PC建築の強化・拡大を図るため、現在PcaPC工法で施工を進めている「国際医療福祉大学発注成田公津の杜医学部校舎建築工事」では、各発注先や設計会社向け現場見学会を16回実施し延べ145人の参加があった ➤ PC建築営業要員の増員を実施、各部門で営業情報の情報共有化を図るシステムを導入 ➤ 民間設備更新需要増に伴う営繕・リニューアル事業の増加 ➤ 生産性向上へ向けたBIM(Building Information Modeling)導入を開始   学生向け現場見学会(公津の杜医学部校舎) 投資家向け現場見学会(公津の杜医学部校舎)

20

部門方針・戦略の進捗状況

海外部門	
部門方針	現地事務所・既存工場・現地合弁企業を含めた包括的体制整備を行い、現地パートナー企業と連携を強化し、市場拡大を目指す
進捗状況 今後の取組み	➤ インドネシアでの合弁会社WIKI-KOBE社は、ジャカルタ地下鉄向けトンネルセグメント生産増により、黒字化となる一方で、子会社KOBE社は、現地競合企業との競争激化により採算悪化 ➤ ベトナムでの合弁会社VINA-PSMC社はホーチミン地下鉄向けPCマクラギ生産工事を受注、2017年度より生産開始 ➤ 海外部門強化のため、海外派遣要員向け語学研修、契約管理を中心とした研修計画立案 ➤ 新エリア進出に向け、現地調査開始  PCマクラギ製作(VINA-PSMC社)

21

部門方針・戦略の進捗状況

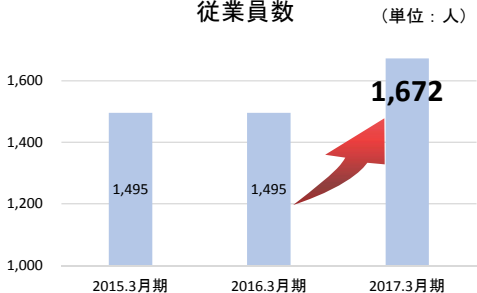
技術部門

部門方針	転換期において、将来における技術的優位性の確立に向けた取組みを推進する
進捗状況 今後の取組み	➢ 大規模更新事業では、当社独自の床版継手工法を開発中、2017年度に実用化の見通し ➢ メンテナンス分野では、海洋構造物に適した電気防食工法、箱桁橋へのリパッシブ工法の適用は、試験体レベルでの確認試験は終了、今後、試験工事により工法の確立を目指す ➢ 電気防食工法の維持管理ツールとして、遠隔管理システム（イージーMモニター）を開発、商品化  地域の建設会社への講習会（リパッシブ工法）  イージーMモニター概念図 

22

部門方針・戦略の進捗状況

管理部門

部門方針	今後の事業規模、事業展開を見据え、人財、ICT、グループ戦略面での取組みを推進する								
進捗状況 今後の取組み	➢ 人財確保と年齢構成の是正を図り、単体で2017.3月末で前年比20名増員、連結で177名（亀田組の連結子会社化による増員147名を含む）増員 （単体2016年4月新卒採用：総合職31名（女性8名）、一般職9名（女性7名）） ➢ 新入社員研修を3カ月から6カ月へ長期化、工事部門のセグメント別OJTプログラムの構築 ➢ 「働き方改革」の法制化対応に向け、休日・時間外労働の削減などによるワークライフバランスの改善及び女性活躍推進などの環境整備に取り組む ➢ IoT等を活用し長時間労働削減に向けた業務の効率化、生産性向上のためのシステム開発を推進、既に計画の33%が完成、また、主要システムの稼働率、活用率、満足度等を調査し、ニーズに最適化した開発に対応する  新入社員研修（工場実習） 従業員数 （単位：人）  <table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>従業員数 (人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015.3月期</td> <td>1,495</td> </tr> <tr> <td>2016.3月期</td> <td>1,495</td> </tr> <tr> <td>2017.3月期</td> <td>1,672</td> </tr> </tbody> </table>	時期	従業員数 (人)	2015.3月期	1,495	2016.3月期	1,495	2017.3月期	1,672
時期	従業員数 (人)								
2015.3月期	1,495								
2016.3月期	1,495								
2017.3月期	1,672								

23

部門方針・戦略の進捗状況

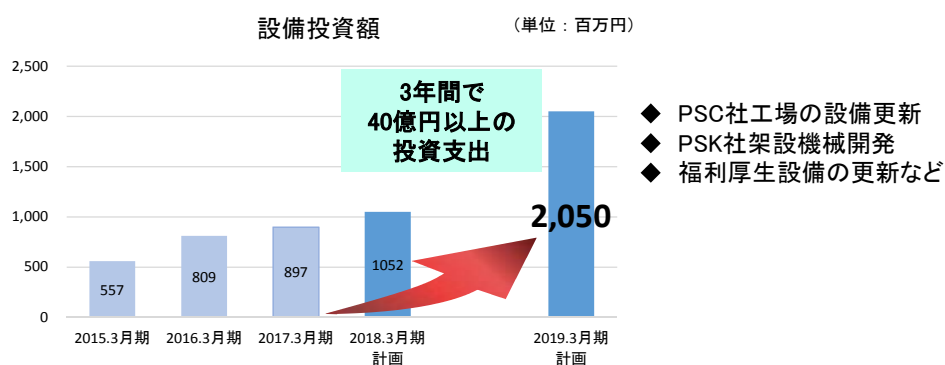
関係会社(グループ経営)

部門方針

社会のニーズを掴み、強固なグループ経営の実践により、グループ全体で企業価値を向上させる

進捗状況 今後の取組み

- PC専門工事会社で登録PC基幹技能者の在籍数が全国でもトップクラスの㈱亀田組をグループ会社化、熟練の建設技能労働者の確保と育成を図っていく
- グループ会社への出向や技術者のローテーションを実施、情報共有を促進するための連絡会等を充実させ、各グループ会社の経営強化を目指す
- 収益源の多様化を図るために、幅広く提案をすくい上げる新規事業公募制度を新設
- グループ経営の強化・拡大のためにM&A等も積極的に検討していく



MEMO

Appendix. 会社概要

25

今後の事業環境の見通し

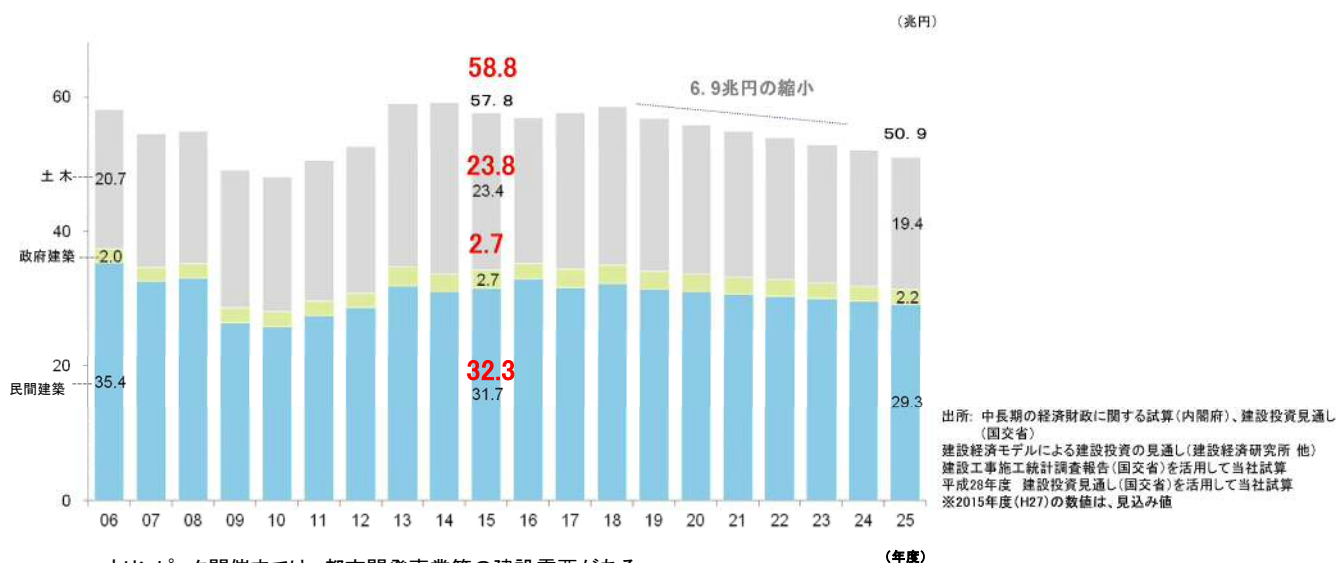
機会 (Opportunities)

- 国土強靱化事業・防災・減災対策の需要は当面持続
- 交通網の整備、高速道路等の大規模更新の需要増
- 老朽化対策、リニューアル事業、海外事業は増加傾向

脅威 (Threats)

- 国内建設市場の縮小(オリンピック特需・震災復興事業の終焉)
- 新設工事主体から維持補修・リニューアル分野への質的変容
- 少子高齢化などを背景とした民間設備投資意欲の低下

建設市場の推移

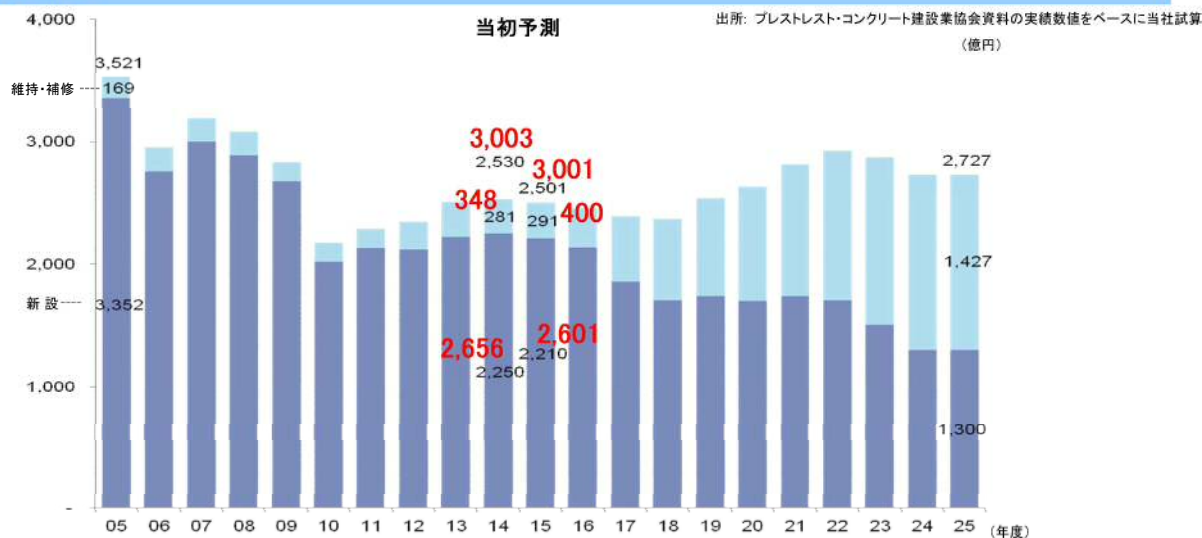


- オリンピック開催までは、都市開発事業等の建設需要がある
- 建設市場全体(土木・建築)では2019年以降市場縮小を見込む
- 建築市場は、維持・修繕市場が拡大する傾向が続くものの、新設工事の減少が見込まれる

26

今後の事業環境の見通し

PC市場の推移



【当初予測】

- 新設市場は縮小傾向が持続すると想定される
- 高速道路の大規模更新による特需等により、維持・補修市場は、拡大が見込まれる
- PC土木市場全体では2,700億円規模まで拡大することが想定される

【実績】

- 2015年度当初:2,501億円→実績:3,003億円(+502億円)
増減差異:新設橋梁2,655億円(+446億円)
維持・補修348億円(+57億円)
- ✓ 新東名・新名神など高速道路整備事業(1,159億円)
- ✓ 北陸および九州新幹線事業(145億円)
- 2016年度当初:2,454億円→実績:3,001億円(+547億円)
増減差異:新設橋梁2601億円(+465億円)
維持・補修400億円(+82億円)
- ✓ 新設橋梁は、各新幹線事業(223億円)が発注増
- ✓ NEXCOは、大規模更新事業(244億円)と倍増

27

会社概要・沿革

会社概要

名 称	株式会社ピーエス三菱
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル3階 Tel (03)-6385-9111
設 立	昭和27年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所市場第1部
事業内容	1.プレストレストコンクリート(PC)工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業 4.プレストレストコンクリート(PC)製品およびプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売 5.プレストレストコンクリート(PC)工事事業機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸 6.鉱物の採掘およびその請負 7.不動産の売買、賃貸およびそれらの仲介ならびに所有管理 8.運送業および倉庫業 9.損害保険代理業および生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業 10.前各号に関連ある一切の業務

沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業(現 三菱重工業(株))七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合弁会社 PT.Komponindo Betonjaya (略称:PT.KOBE)社設立	
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd. 設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	



長生橋(石川県七尾市)

1951年に完成したわが国初のPC橋。2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。

28

グループネットワーク

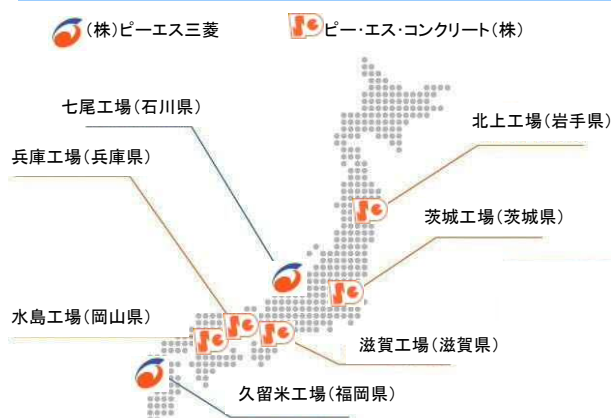
ピーエス三菱グループ(主要国内5社)



株式会社 ピーエス三菱
P.S. Mitsubishi Construction Co., Ltd.
支店
・東京土木支店
・東京建築支店
・東北支店
・大阪支店
・名古屋支店
・広島支店
・九州支店
営業所 34箇所

株式会社ピーエスケー		PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売およびこれらの運用・活用に関するエンジニアリング
株式会社ニューテック康和		道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル
ピー・エス・コンクリート株式会社		PC製品の製造販売
菱建商事株式会社		建築資材販売、物流、不動産関連など
菱建基礎株式会社		土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク



29

事業構成/強み

建築建設事業

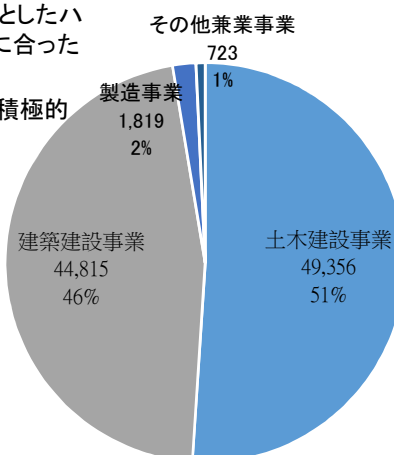
- プレキャスト(PCa)工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画力提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 三菱グループの唯一のゼネコン
- 建築部材をプレキャスト化した工業化工法、柱を鉄筋コンクリート造、梁を鉄骨造としたハイブリッド構造など、現代のニーズに合った技術を保有・展開
- 国土強靱化、防災・減災対策事業に積極的に貢献



Lake Frame
SHAKUJIKOUEN
(東京都)



天理駅前広場コフン
(奈良県)



製造事業

- PC製品の製造・販売
- コンクリート製品の製造・販売

セグメント別売上高構成比率
(2017.3月期 単位:百万円)

土木建設事業

- 日本でプレストレストコンクリート(PC)の実用化に初めて成功
- PC業界のトップランナーとして、多くの技術を開発
- PCの特長である高強度・高品質・高耐久を活かして、橋梁・鉄道・空港・港湾・上下水道・発電所・防災など幅広い分野に展開
- 公共工事に多くの施工実績を持つ他に、民間工事に対しても豊富な施工実績を誇る
- 震災復興、国土強靱化政策、インフラ老朽化対策などに対して、PC技術の適用範囲を拡大



新名神高速道路
猪名川橋(兵庫県)



白虹橋(京都府)

その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

30

プレストレストコンクリート(PC)技術とプレキャスト(PCa)技術とは

プレストレストコンクリート(PC)とは

PCは「あらかじめ(プレ)応力(ストレス)を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点(引張には弱い)を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、柱や梁を細くしたり空間の距離を大きく取ることができます



プレキャスト(PCa)とは

高強度のコンクリートを使用し、あらかじめ工場で製作したコンクリート部材です

- 工場で生産されるので、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組み施工した場合より周辺の環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



31

企業認知度UPの取組み



快適な
クラブハウスを
ベースに世界を
相手に全力で
闘います



浦和レッズ
横野智章選手





クラブハウス完成予想図

現在、浦和レッズの大原サッカー場において、クラブハウスの増築が進められています。新しいクラブハウスの特長やこれからの夢を、浦和レッズの横野智章選手と藤井敏道社長に語り合っていました。

続きはWEBで!!

ピース三菱 検索

32

「女性の活躍推進行動計画」へ着手

女性が活躍し、イキイキ働ける職場づくりに取り組んでいます

当社は、「中期経営計画2016」、「女性の活躍推進行動計画」などを策定し、女性がより働きやすい環境づくりに着手しています。

どういう取り組みをしたら女性が働きやすい職場になるのか、理想的な環境ができるかを、実際に女性たちの声を集めることで、制度・規程類の見直しや職場環境の改善を図っています。

経営陣と女性社員の対談

藤井社長をはじめ経営陣5名と当社の将来を担う女性社員7名が集まり、現状の悩みやこれからのビジョンについて語り合いました。



現場をあげて女性活躍を応援

東京建築支店では、現場で働く女性を応援する取り組みを行っています。これを皮切りに全国展開を目指します。



ヘルメット貼付用ステッカー

タウンミーティングの実施

本社・7支店において、女性活躍推進行動計画に掲げる「女性社員の積極採用」「長時間労働対策」の他、職場環境や育児・介護等の規程類の見直し、教育研修に関する要望について意見交換を行いました。



MEMO



将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 経営企画部
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル
TEL: 03-6385-8001 FAX: 03-3536-6920 メールアドレス: koho.ir@psmic.co.jp

P.S.Mitsubishi Construction Co.,Ltd.